

<2024 年度共同教育学部・情報学部合同 留学生シンポジウムの報告>

留学生シンポジウムが 2024 年 12 月 4 日に開催されました。留学生シンポジウムとは、毎年群馬大学共同教育学部、情報学部 に属する GFL 生が主体となり企画・運営している国際交流行事で、異文化への理解・留学生との交流を深めることを目的としています。以下に、今年度の留学生シンポジウムの報告をします。

<留学生による発表>

1. ギリ・アパルナさん (インド)

母国である、インドの 1) 大学、2) 地理、3) その他について紹介していただきました。ここではそれぞれの分野について紹介をさせていただきます。

- 1) アパルナさんが通われているティラク・マハラシュトラ大学は 1921 年にロークマニヤーティラクから設立され、伝統的な教育、サンスクリット、アーユルヴェーダ、社会科学などに重点を置き、独自の研究と教育活動を展開しているそうです。
- 2) インドは南アジアに位置し、ヒマラヤ山脈が北部に広がる一方で、南部はインド洋に面している多様な地形を持つ国である。ガンジス川やインダス川といった大河が肥沃な平野を形成し、多くの人口を支える重要な農業地域を生み出しているそうです。
- 3) そのほかには言語と民族、お祭り、おいしい食べ物、インドの人々について教えてくださいました。

2. キム・ヒョンスさん (韓国)

母国である、韓国の 1) テグ (大邱)、2) 食べ物、3) 大学について紹介していただきました。ここではそれぞれの分野について紹介をさせていただきます。

- 1) テグ (大邱) は、韓国の南東部に位置する都市で、特にミュージカルの都市として知られています。ここは、韓国の伝統的な文化と現代的なエンターテイメントが融合する場所であり、ミュージカルや舞台芸術の重要な拠点とされています。また、テグは経済、教育、観光の面でも重要な都市で、美しい自然景観も魅力の一つだそうです。
- 2) 韓国の食文化は地域ごとに特色があり、ユニークな料理が多い。例えば、ムンテ ィギ (生肉の刺身)、ポッポルコギ (甘辛い焼肉)、ナプチャクマンドゥ (薄い皮の餃子)、マクチャン (牛や豚の腸の焼き物) などがあり、それぞれ独特の風味が楽しめる。
- 3) ヒョンスさんが通われているヨンナム (嶺南) 大学のメインキャンパスである慶山キャンパスは、韓国で 2 番目に広いキャンパスであり、多くの学部があるそうです。

<日本人学生による発表>

1. 加藤 さくらさん (群馬大学 共同教育学部 家政専攻4年)

加藤さんは2024年2月から7月まで、スロベニアのリュブリャナ大学に長期交換留学されました。1) 留学の概要、2) 留学先について、3) 学んだことについて紹介させていただきます。

- 1) この留学はスロベニア政府奨学金とぐんま赤尾奨学財団の支援を受けて実現されました。留学中、加藤さんは主にプレゼンテーションやレポートの課題に取り組み、英語力を活かして学業に励みました。
- 2) スロベニアではホッケーやビリヤードといったスポーツも親しまれています。特にホッケーは人気のある競技で、多くのファンを魅了しています。また、郷土料理にはクリームを使った濃厚なスープや、ソーセージ、ピザに似たポテトパンケーキ「ポトカ」など、バラエティ豊かな味が楽しめるそうです。
- 3) 加藤さんにとってこの留学は、異文化交流を通じてさまざまな価値観や考え方に触れる機会となり、自分の視野を広げる大きなきっかけとなりました。この経験を通じて得た知識やスキルだけでなく、新たに築かれた人間関係や、自信を持って挑戦する姿勢は、今後の人生にも大きな影響を与えるものであると語られました。

2. 林 朋奈さん (群馬大学 情報学部2年)

林さんは2024年8月にネパールにあるカトマンズ大学に短期留学されました。ここでは1) 留学の目的、2) 留学先について、3) 学んだことについて紹介させていただきます。

- 1) 留学の目的として、在学中に留学経験を積みたい、英語力を向上させたい、さらに自分ではなかなか訪れないような国に行きたい、という希望があったそうです。
- 2) 留学期間中は、SDGsやネパールの文化・歴史に関する講義、学校や病院の訪問、現地の伝統料理やダンス体験など、多彩な活動を行い、多文化や多民族国家としてのネパールの特性を実感されました。滞在先のホテルは快適だったものの、お湯が出ないことや衛生面の違いに苦労する場面もあったそうです。
- 3) 留学を通じて、現地での生活の中で直面する言語の壁や衛生面の課題、食事の違いに適応する経験を積むことで、発展途上国の課題に興味を深めるきっかけとなりました。また、事前準備や留学中に得た挫折と成長のすべてが、大きな財産となったと感じているとのことでした。

<学生企画によるアクティビティ>

学生企画によるアクティビティでは伝言ゲームとクイズを行いました。伝言ゲームでは、異なる言語や文化背景を持つ参加者が協力しながら内容を伝え合い、言葉のニュアンスや解釈の違いを学びました。笑いや驚きが生まれる場面も多く、コミュニケーションの難しさと楽しさを実感する時間となりました。クイズでは、各国の文化や歴史に関する問題を通じて、参加者が互いの知識を深めることができました。難易度が高めの問題も多かったですが、それが議論や交流のきっかけとなり、場の活気を高めました。

<終わりに>

準備のために活動して下さった先生方や職員の方々本当にありがとうございます。今回の留学生シンポジウムでは、インドと韓国についてや留学した感想を聞きながら、海外について身近に感じることができました。このような体験を通じて、今後の学校生活に活かしていければと思います。(清水)

留学生シンポジウムを通じて、留学への思いが一層強くなりました。このイベントの成功は、参加者や発表者、そして関係者の皆様のご協力なしには成し得なかったものです。心より感謝申し上げます。皆さんと共に創り上げたこの貴重な経験は、私にとって大きな学びとなり、新たな挑戦への意欲を与えてくれました。この経験を糧に、今後さらに一步踏み出していきたいと考えています。(鴨川)



<文責>

共同教育学部 英語専攻 1年 清水梨那

情報学部 1年 鴨川結優